

III 包含層出土の遺物

1 概要(図III-1・2、表III-1)

遺物包含層からは、土器・石器等合計10,033点の遺物が出土した。内訳は土器7,887点、石器等2,146点で、土器が全体の約80%を占める点が大きな特徴である。

土器は、縄文時代前期後半・中期前半・後期前葉のものが出土している。分類別の点数では縄文時代前期後半のⅡ群b類が7,678点(97.2%)と出土土器のほとんどを占め、他に後期前葉のⅣ群a類が195点(2.4%)、中期前半のⅢ群a類が14点となる。Ⅱ群b類には円筒土器下層b式・c式・d1式があり、この中ではb式とみられる土器片が最も多く、c式・d1式は少量である。Ⅳ群a類は涌元式～トリサキ式、大津式とみられる土器などが出土している。

石器等は、定型的な剥片石器として石鏃、石槍・ナイフ類、石錘、つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器がある。石材は全て頁岩である。この中ではスクレイパーが36点と最も多く、次いでつまみ付きナイフ12点、両面調整石器10点、石鏃4点、石槍・ナイフ類2点が出土した。剥片は513点出土し、大きさは3～5cm程度のものが多い。石材は頁岩がほとんどで、他に黒曜石、珩岩、泥岩、砂岩、凝灰岩が少量みられる。礫石器は石斧、たたき石、すり石、扁平打製石器、砥石、石皿・台石、石錘などがある。この中では扁平打製石器が20点と最も多く、次いで石斧10点、たたき石7点、砥石2点、石錘2点、すり石1点、石皿・台石1点が出土した。

層位別の出土点数は、Ⅱ-5層が4,207点(41.9%)と最も多く、次いでⅡ-4層が3,095点(30.8%)、Ⅱ-2層が1,774点(17.7%)とこれらで約90%を占める。下位の土層から多く出土する傾向がみられ、調査時でもⅡ-4層下位からⅡ-5層上位にかけて、遺物が面的にまとまって出土する状況を確認している。土器では、最も多いⅡ群b類はⅡ-5層3,621点が最も多く、次いでⅡ-4層2,450点、Ⅱ-2層1,072点となり、全体の傾向と同様である。掲載しているⅡ群b類の復元土器は主にⅡ-4、Ⅱ-5層出土のものである。また、Ⅱ-1～5各層出土の土器片が接合する状況もみられた。Ⅲ群a類はⅡ-3～5層にかけて出土し、Ⅱ-3層からが最も多い。Ⅳ群a類はⅡ-2、Ⅱ-4層と泥炭層から出土している。ほとんどがⅡ-2層出土であるが、泥炭層からもⅣ群a類土器が1個体分出土している(図III-8-29の復元土器)。泥炭層からは他に遺物は出土していない。また、Ⅱ-3～5層出土の土器は低地部の土中の水の影響などで表面が剥離、磨耗しているものが多い。礫を除いた石器等では、多い順にⅡ-2層275点、Ⅱ-4層251点、Ⅱ-5層92点となり、Ⅱ-5層が少なく土器とやや傾向が異なる。

発掘区別の点数では、G43・44区、H44区で遺物が多く、1発掘区から約1,700～2,900点出土している。地形的には段丘崖の急斜面がやや緩やかになる場所であり、段丘上から流れ込んだ遺物がこの地形の変換点にあたる部分に溜まった状態と推定される。この場所から出土した土器のほとんどがⅡ群b類円筒土器下層b式であり、この時期に廃棄の場として利用されたものと考えられる。土器、石器等ごとの点数分布はどちらも全体の出土傾向と同様で、大きな違いはみられない。ただし、Ⅳ群a類土器はH43・44区の狭い範囲からまとまって出土している。

なお、発掘区別遺物分布図(図III-1・2)は、全体の状況が確認できるように昨年度調査区のものと一緒に掲載した。2か年を通した遺物分布状況を見ると、台地縁辺の遺構が密集する地域周辺と斜面の2か所において遺物の分布が密になる傾向がみられる。

遺物合計



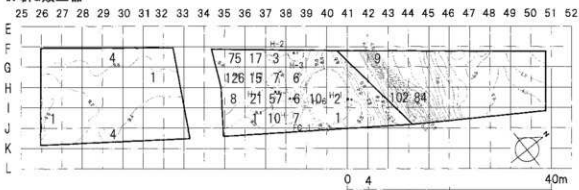
土器



II群b類土器

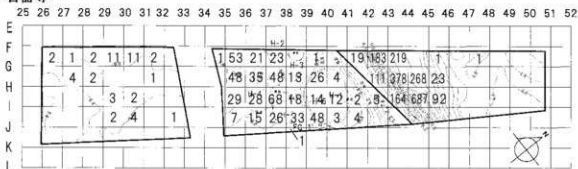


IV群a類土器



図III-1 発掘区別遺物分布図(1)

石器等



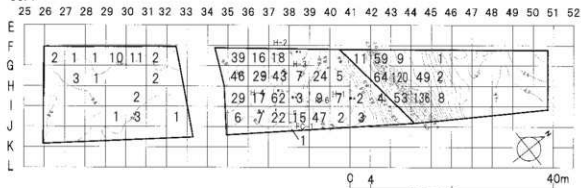
剥片石器



礫石器



剥片



図III-2 発掘区別遺物分布図(2)

2 出土遺物

土器(図Ⅲ-3~13、表Ⅲ-2~5、図版8~17)

復元土器30点、破片土器56点を図示した。復元土器の内訳はⅡ群b類土器29点、Ⅳ群a類土器1点である。破片土器の内訳はⅡ群b類が52点、Ⅲ群a類2点、Ⅳ群a類2点である。破片土器は、主に口縁部や底部などの器形や文様の特徴がわかるものを中心に掲載した。

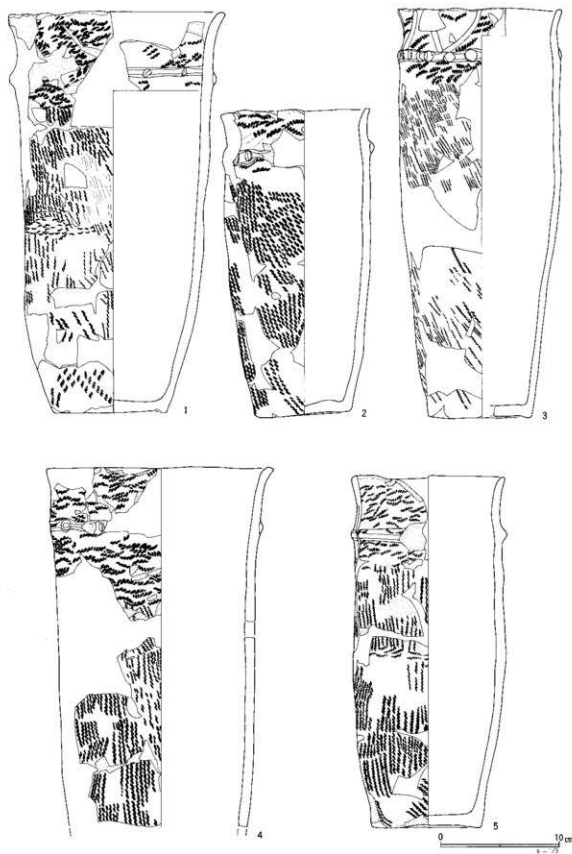
復元土器(図Ⅲ-3~8、表Ⅲ-2・3、図版8~12)

1~28はⅡ群b類の円筒土器下層式である。1~19は円筒土器下層b式の深鉢で、口縁~底部ないし口縁~胴部にかけて復元した土器である。土器の法量は口径13~23cm、底径8~12cm、器高20~37cm程度を測る。器形は細長い円筒形のものが多く、口縁部はゆるく外反し、胴部は直線的もしくはわずかに張り出し、胴部から底部にかけてゆるやかにすぼむ。また、底部はやや上げ底気味になるものが多い。文様構成は、口縁部文様帯があるものと地文のみのものに大きく分かれる。また、口縁~頸部に横位の低い隆帯が施されるものが多い。内面調整はナデが多いが、一部ミガキが施されるものもある。胎土は繊維を多く含み、器面に繊維痕を残すものがほとんどである。

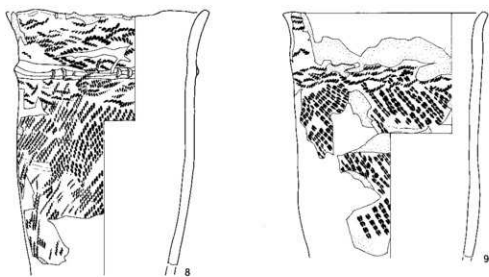
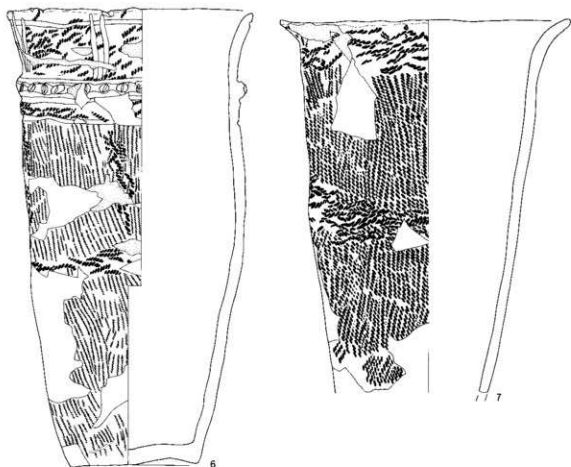
1~11・13は口縁部文様帯に綾絡文が施されるものである。7・9を除き口縁部文様帯に隆帯を設け、5以外の隆帯には指頭によると考えられる刻みや押捺が加えられる。また、隆帯の下部にも綾絡文が施されている。1~7・13は胴部に燃糸文が施文されるものである。燃糸文は縦位に施されるものが多い。1は胴部に縦位の燃糸文と横位の綾絡文が施文され、底部付近には複節斜縄文が施される。胴部の綾絡文原体は口縁部文様帯のものに比べて細い。また、胴下半~底部付近は器面の磨耗が著しい。2は胴部がわずかに膨らむ器形で、底部内面はやや起伏がある。3は口縁部文様帯に太く浅い沈線で鋸歯状文が施されるものである。胴部には細い原体による燃糸文が斜位気味に施される。隆帯には指頭による刻みが施される。4は綾絡文が胴上部まで広がり、文様帯下には縦位の燃糸文が施文される。5は胴部中位に横位の綾絡文が施され、その上下には縦位の燃糸文が施文される。底部付近は斜位の燃糸文が施される。また、隆帯には押捺等が加えられない。6は口縁部文様帯の上下区画と、隆帯の上下に横位の沈線が施され、さらに縦位に2条1組の沈線が加えられる。高い隆帯上には小さく深い刻みが施される。胴部の地文は縦位の燃糸文で、胴上半部では縦位に、中央付近では横位に綾絡文が施される。7は口縁部が強く外反し、胴~底部にかけてゆるくすぼまる器形である。隆帯はなく、口縁部には綾絡文のみ施文される。胴部の地文は縦位の燃糸文で、胴部中位に横位の綾絡文が施される。13は器面の磨耗が著しく不明瞭だが、口縁部文様帯に綾絡文と浅い2条の沈線が横位に施文される。隆帯上には指頭による押捺が加えられ、胴部には斜~縦位の燃糸文が施される。8~11は胴部に縄文が施されるものである。8は胴部に反燃(撚り戻し)の縄文が施される。4単位のごくゆるい波状口縁で、隆帯上には細い刻みが加えられる。9は隆帯がなく、胴部には複節斜縄文が施される。10は、胴部の地文は斜縄文で中央付近には横位の綾絡文が施される。図示していないが底面にも縄文が施される。また、隆帯上の刻みは指頭による楕円形のものと同斜位の線状のもの2種類がみられる。11は胴部及び底面に合燃の縄文が施されるものである。口縁部の外反は弱く、隆帯には刻みが加えられる。

12は小型の深鉢で、口縁部を欠くものである。隆帯には押捺等が施されない。胴部の地文は細い原体による単節の燃糸文で、胴上半部には部分的に複節の燃糸文が施文される。

14~19は口縁部文様帯がなく、地文のみ施されるものである。14~16は隆帯が設けられ、刻みなどが加えられる。14・19は地文に縄文と燃糸文が施されるものである。14は口縁~胴上半部には単節の斜縄文が施され、胴下半部には縦位の燃糸文が施される。隆帯には幅の広い刻みが施される。19は口縁部に単節の斜縄文、胴部以下は斜~縦位の燃糸文が施される。燃糸文は、胴上半部は単節で、胴下半~底部は複

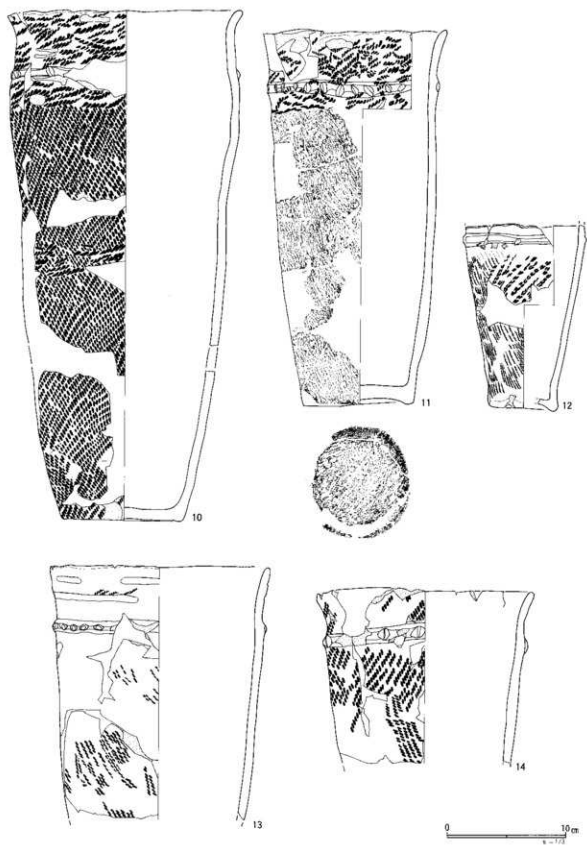


図Ⅲ-3 包含層出土の土器(1)



0 10 cm
1/2

図Ⅲ-4 包含層出土の土器(2)



図Ⅲ-5 包含層出土の土器(3)

節である。15～18は地文に縄文のみ施文されるものである。15は斜～縦位の縄文が施文される。ゆるい波状口縁で底部は上げ底である。隆帯には幅の広い刻みが増えられる。16の地文は合燃の縄文で、隆帯にも施文される。17は器面の磨耗が著しく文様は不明瞭だが、斜行縄文が施される。18は短い口縁部が強く外反する器形である。地文は反燃の縄文が斜～縦位に施文される。

20は円筒土器下層c式の深鉢で、20aと20bは未接合同一個体である。器壁は薄く、口縁部の外反は弱い。狭い口縁部文様帯に、燃りの異なる原体による縄面直痕を交互に施文している。胴～底部は細い原体による燃糸文が縦位に施される。底部はやや上げ底である。

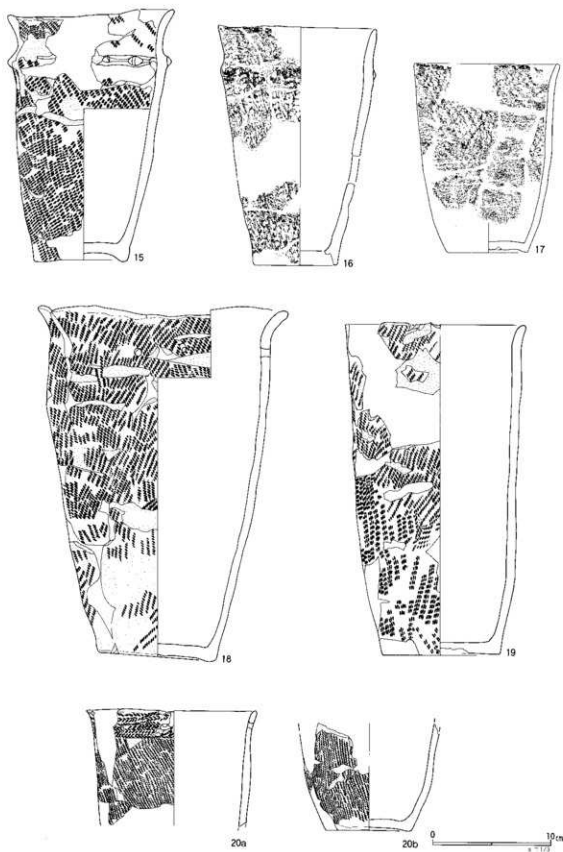
21～28は円筒土器下層b～c式の胴～底部である。器形は胴～底部にかけてややすぼまり、底部は上げ底状になる。21～24・27は地文に燃糸文が施されるもので、縦位に施文されるものが多い。22・24は底面にも燃糸文が施文される。21は底面の大部分を欠くもので、胴部がややふくらむ器形である。22は底部付近の燃糸文が斜位に施される。23は胴部で、複節の燃糸文が縦位に施され、胴部中位には横位の沈線が2条加えられる。内面調整はミガキである。24は複節の燃糸文が斜位に施される。25・26は地文に縄文が施されるものである。25は合燃の縄文が斜～縦位に施される。27は器面の磨耗が著しい。地文は複節の燃糸文が縦位に施される。28は地文に燃糸文と縄文が施文されるものである。燃糸文は縦位と斜位に施され、底部付近で一部斜縄文が施文される。また、底面には燃糸文のみみられる。26は円筒土器下層c式で、破片土器59の口縁部と未接合同一個体である。器壁が薄く、胴部には反燃の縄文が斜位に施される。

29は縄文時代後期前葉IV群A類土器の壺である。ほぼ完形で、泥炭層からまとも出土した。口縁部はやや外反し、胴部が膨らむ器形で、頸部に把手が4か所つけられる。文様は、口縁部には横位の細い沈線が施され、頸～胴上部は把手の間をつなぐ様に横位の太い隆帯が施され、隆帯沿いには細い沈線が増えられる。胴部には把手下に細い隆帯による上下1組の渦巻文が4か所施される。渦巻文の左右には隆帯で直線及び曲線の幾何学的文様が作り出される。また、上下の渦巻文の間は横位の隆帯で区画されている。この土器は地文の縄文がなく、さらに隆帯により文様が施されるなどあまり類例がないものである。器形や文様要素から涌元式もしくはトリサキ式に相当すると思われるが、単独で出土していることもあり、幅をもたせた位置付けしておく。

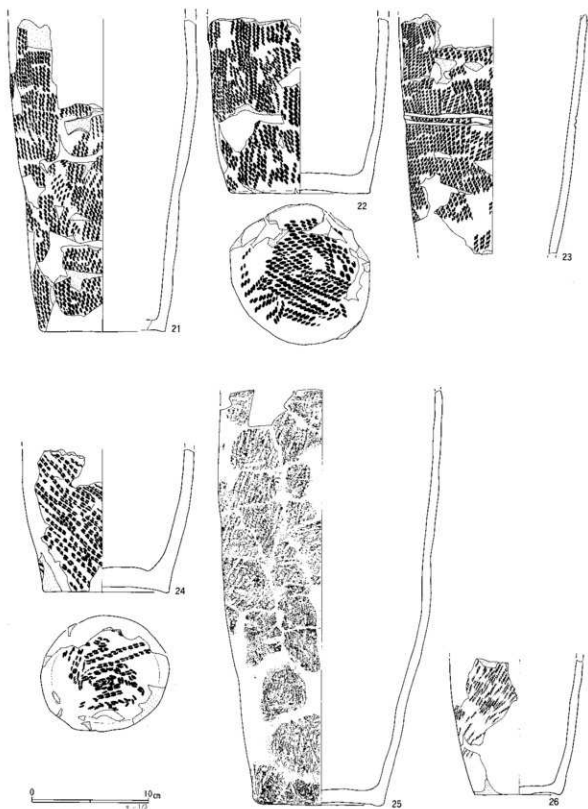
破片土器(図Ⅲ-9～13、表Ⅲ-4・5、図版13～17)

30～81はⅡ群b類の円筒土器下層式である。30～54は円筒土器下層b式の深鉢口縁～胴部である。器形は口縁部が外反し、胴～底部にかけてはわずかにすぼまるものが多い。胎土は繊維を多く含む。

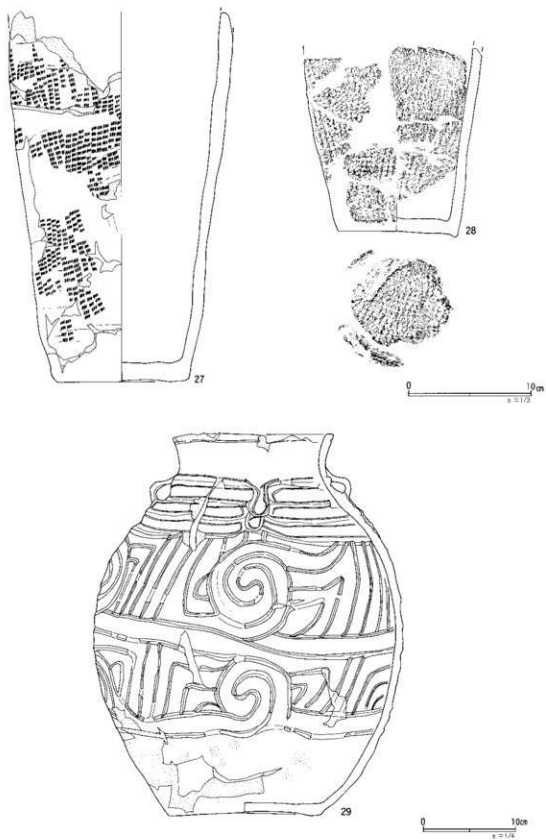
30～48は綾絡文が施されるものである。口縁部文様帯への施文が多いが、胴部に施されるものも少量ある。地文は正燃、反燃、合燃の縄文や燃糸文が施される。30～44・46aは口縁～胴部である。30～39・44・46aは横位の隆帯を設けるもので、隆帯は全体的に低く、断面は三角形ないし半円状のものが多い。また、隆帯には指頭によると考えられる刻みや押捺がほとんどのものに施される。31～33・35・38・44は隆帯下にも綾絡文が施文される。30は口縁部文様帯が隆帯で区画され、胴部には合燃の縄文が施される。31・32は内面調整にミガキが施される。31は胎土に砂粒を多く含む。32は高い隆帯に押捺が連続的に加えられる。33は幅の狭い口縁部がやや強く外反する器形である。34はごく低い隆帯上に横位の爪形の刻みが連続する。胴部の地文は単節の斜縄文である。35は隆帯が高く、隆帯上にも綾絡文が加えられる。36は口縁部文様帯に斜縄文を施し、上部には綾絡文を加えている。37は口縁部がやや強く外反し、隆帯の上下と文様帯上部には横位の沈線が施文される。また、綾絡文の原体は細い。38・39は口縁上部を欠くものである。38は隆帯下と口縁部文様帯下部に横位の沈線が施される。胴部の地文は反燃の斜縄文で、胴部にも上下を沈線で区画された横位の綾絡文が施される。39は隆帯にも綾絡文が施され、胴部には斜縄



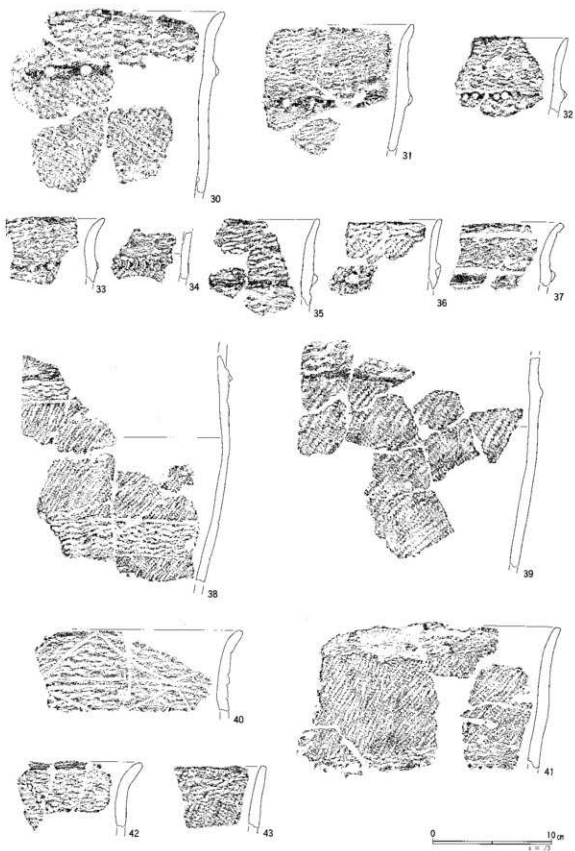
図Ⅲ-6 包含層出土の土器(4)



図Ⅲ-7 包含層出土の土器(5)



図Ⅲ-8 包含層出土の土器(6)



図Ⅲ-9 包含層出土の土器(7)

文が施される。44は口縁部文様帯の上下区画と隆帯沿いに沈線が施される。隆帯には斜位の縄側面圧痕が密に施される。胴部の地文は縦位の合燃縄文で、胴部にも横位の綾絡文が施される。46a・46bは未接合同一個体である。比較的高い隆帯には指頭による押捺が加えられる。口縁部文様帯は綾絡文施文後、網目状燃糸文が施される。また、胴部の地文は斜～縦位の反燃の縄文で、胴部中位には網目状燃糸文が横位に施文される。また、底面にも縄文が施される。40～43は隆帯が設けられないものである。40・42は口縁部の外反がやや強く、41・43はほとんど外反しない器形である。40は口縁部文様帯に綾絡文を施した後に横位の沈線が施され、その上下に2段の大振りな鋸歯状文が加えられる。41は口縁部と胴部に横位の綾絡文が施され、地文には反燃の斜縄文が施文される。42は綾絡文施文後、斜位の縄側面圧痕が施される。43は口縁部上位に綾絡文が、下位には斜縄文が施文される。45・47・48は綾絡文の施される胴部である。45は綾絡文を2条の横位の沈線で区画し、下位には合燃の縄文が縦位に施される。47は横位の綾絡文と縦位の燃糸文が交互に施文される。48は上位に綾絡文が施文され、下位には単節の斜縄文が施される。

49～54は綾絡文がなく、斜縄文、燃糸文などが施される口縁部である。49・50は隆帯が設けられる。49は器面の磨耗が著しい。地文は斜縄文で、隆帯は押捺などが施されない。50は隆帯がごく低く、胎土には砂粒を多く含む。文様は隆帯を含めRLとLRの縄文により縦位の羽状縄文が施される。51は単節の斜縄文が施される。52は口縁部に幅1cmほどの無文部があり、下部には単節の縄文が縦位に施される。53は口縁がゆるい波状を呈する。文様は横位の燃糸文が施され、さらに口縁に沿って2条の縄側面圧痕が加えられる。また、口唇部にも縄側面圧痕が施文される。54は網目状燃糸文が施される。

55～58は円筒土器下層b～c式の深鉢口縁～胴部である。55は口縁部の外反が弱く、文様は細い原体により綾絡文が施される。56は縄側面圧痕が横位に数条施文され、下部は隆帯で区画される。胴部には斜縄文が施される。57は斜位の燃糸文と横位の縄側面圧痕が2条施される。58は刻みが増えられた低い隆帯が設けられ、地文には単節の斜縄文が施される。

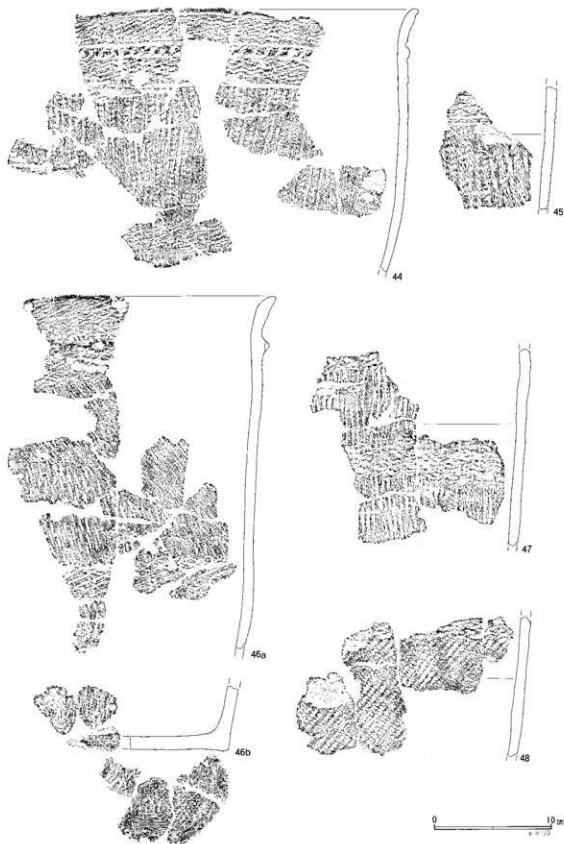
59～62は円筒土器下層c式の深鉢口縁～胴部である。59は口縁～胴部で復元土器26の底部と未接合同一個体である。口縁は波状を呈し、文様帯には横位の燃糸文を施文後、縦及び横位に縄側面圧痕が加えられる。胴部の地文は反燃の斜縄文である。60は口縁部文様帯に横～斜位の燃糸文を施文し、上下を横位の縄側面圧痕で区画する。また、2条一組の斜位の縄側面圧痕も加えられる。61は横位の燃糸文が施され、さらに2条一組の縄側面圧痕が縦位に加えられる。62は頸部に縄側面圧痕が縦位及び横位に施され、下位には縦位の燃糸文が施文される。

63～65は円筒土器下層b～c式の深鉢胴部である。63は上位に単節斜縄文、下位は複節斜縄文が施される。64は斜～縦位の燃糸文が施文される。65は複節の縄文が縦位に施される。

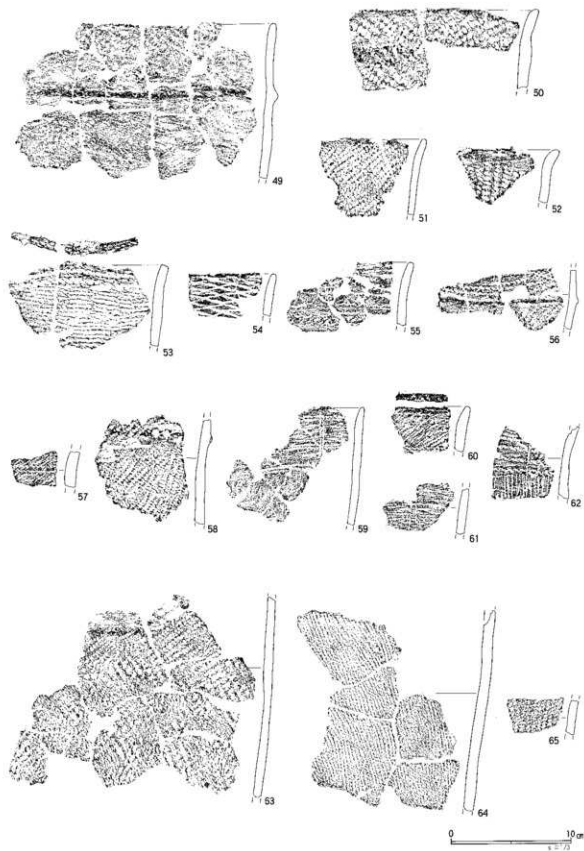
66～78は円筒土器下層b～c式の深鉢胴～底部である。底部がわずかに外に張り出し、やや上げ底になる器形で底面にも文様が施されるものがある。66～70は地文に単節の斜縄文が施されるもので、66～69はLR斜縄文、70はRL斜縄文が施文される。66・69・70は底面にも縄文が施文される。68は底面にミガキ調整が施される。71は反燃の縄文が施文されるものである。72～78は地文に縦位の燃糸文が施されるもので、77・78は底面にも文様が施文される。

79～81は円筒土器下層c～d式の深鉢口縁～胴部で、79は円筒土器下層d1式である。79の口縁部には横位に4条、縦位に3条一組の縄側面圧痕が施される。胴部は横位の羽状縄文と縦位の燃糸文が交互に施文される。80～81は胴部である。80は縦位の燃糸文と短い結束羽状縄文が施されるものである。81は燃り以外の異なる原体の縄側面圧痕が2条一組で縦位に施されるものである。

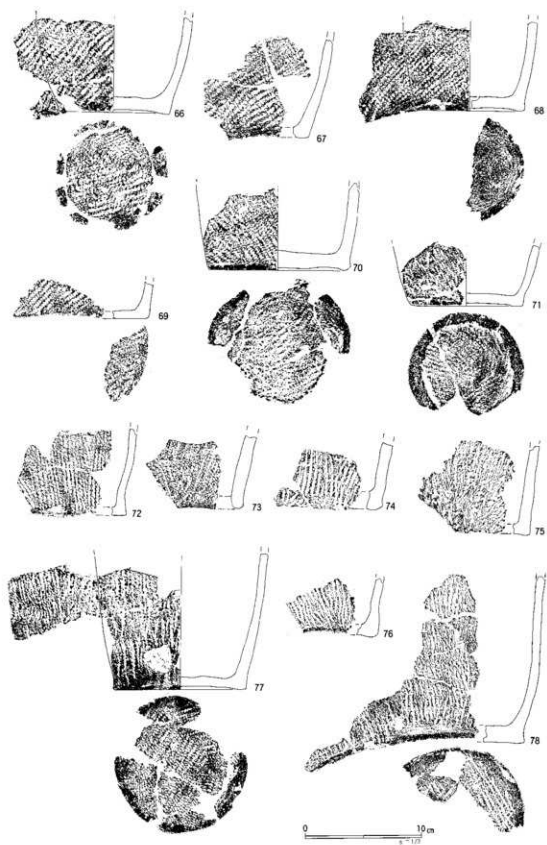
82・83は縄文時代中期前半、III群a類土器の深鉢である。82は円筒土器上層a～b式の口縁部である。波状口縁の一部で口唇部には細かい縄側面圧痕が連続的に加えられ、口縁部には横位の縄側面圧痕が施される。83は胴部で単節の羽状縄文が施される。



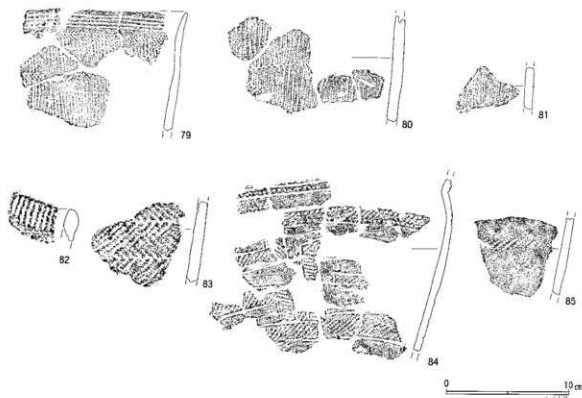
図Ⅲ-10 包含層出土の土器(8)



図III-11 包含層出土の土器(9)



図Ⅲ-12 包含層出土の土器(10)



図III-13 包含層出土の土器(11)

84・85は縄文時代後期前葉、IV群 a 類土器の深鉢である。84は大津式の頭～胴部で、沈線で区画した磨消縄文によって方形を基調とした幾何学的な文様が施される。頭～胴上部の沈線間や縄文に小さな円形の刺突列が横位に加えられる。胎土には砂粒を多く含む。85は胴部で、一部斜縄文が施される。

石器等(図III-14～17、表III-6、図版18・19)

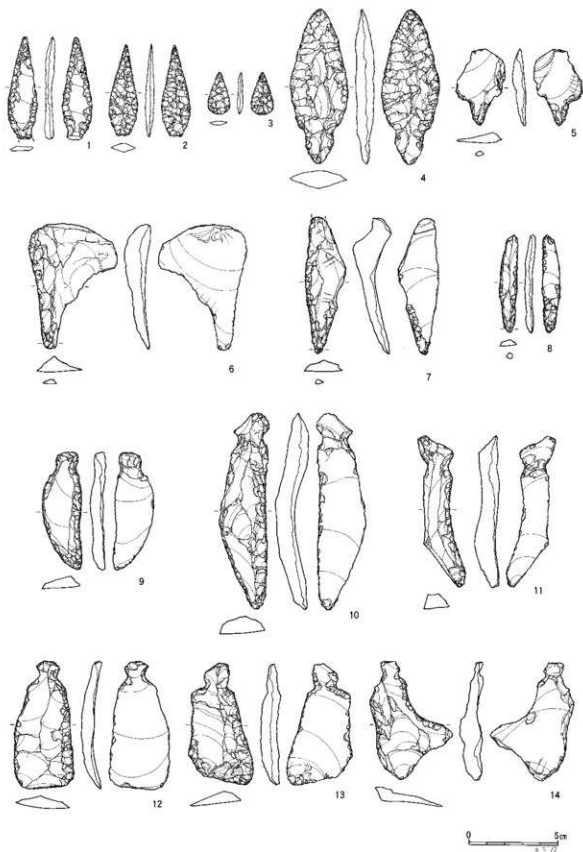
剥片石器類29点、礫石器12点を図示した。掲載した剥片石器類の石材は全て頁岩である。

1～3は石鏃である。1は有茎で、茎下部を欠失する。素材である縦長剥片の打点側を基部とし、側面観はやや湾曲する。両面に粗い周縁加工が施され、左右は非対称である。2・3は無茎で、細かい両面加工が施されるものである。2は平基のもので、基部の幅は短く、柳葉形に近い形状である。3は小型の木葉形を呈し、基部は丸みを帯びる。

4は石槍・ナイフ類である。縦長剥片素材で両面に二次加工が施される。茎部は比較的大きく、裏面に素材面を残す。

5～8は石錐である。5・6は比較的大きなつまみ部をもつものである。5は薄身の縦長剥片を素材とし、末端側に二次加工を施し錐部が作り出される。6は表面左側縁に連続した二次加工が施される。7・8は細長い形状のものである。7は厚みのある縦長剥片を素材とし、表面両側縁及び裏面左側縁に二次加工を施し、錐部を作り出す。8は棒状で、表裏面の両側縁に二次加工が施される。裏面の二次加工はやや粗い。

9～14はつまみ付きナイフである。縦長の剥片を素材とするものが多く、つまみ部を素材の打点側にするもの(9・12)と末端側にするもの(10・11・13・14)に分かれる。また、表面のない二側縁



図Ⅲ-14 包含層出土の石器(1)

に二次加工を施し、刃部を作り出すものが多く、つまみ部を除き裏面にはあまり二次加工がみられない。9～11はやや細長い形状のもので、9・10は表面の二側縁に二次加工を施し刃部を作り出している。11は表面の右側縁に二次加工が施され、刃部はやや内湾する。12～14は比較的幅の広いものである。12は主に表面右側縁に二次加工が施され、左側縁及び下縁には連続する微細な剥離痕がみられる。13は表面の右側縁に急角度の二次加工が施される。14は表面の右側縁に内湾する刃部が作り出される。

15～24はスクレイパーである。刃部の形状は直線的ないしゆるく外湾するものが多い。15～17は二側縁に刃部が作り出されるものである。15・16は比較的薄身の剥片を素材とし、緩い角度の二次加工により刃部が作り出される。16の刃部はゆるく外湾する。17は厚みのある縦長剥片を素材とし、表面左側縁には比較的粗い二次加工が施される。18～22は一側縁に刃部が作り出されるものである。18は側面観がやや湾曲するものである。19は表面に原石面を残す。20は緩い角度の丁寧な二次加工により直線的な刃部が作り出される。21は厚みのある縦長剥片を素材とし、右側縁に直線的な刃部が作り出される。22は表面左側縁に外湾する刃部が作り出される。23・24は幅の広い剥片を素材とし、素材剥片の下縁部に刃部が作り出される。23は表面に大きく原石面を残す。24の刃部はゆるく外湾する。

25・26は両面調整石器である。25の表面左側縁には急角度の二次加工が施され、裏面は平坦な剥離が施される。26は表裏面共に周縁からやや粗い二次加工が施される。

27～29は石核である。27の主な作業面は1面で、求心状に剥片が剥離されている。打面には粗い調整が施される。28は剥片素材の石核である。作業面は対向する表裏2面に設定され、それぞれ打面はほぼ固定される。29は表裏2面に作業面が設定され、求心状に剥片が剥離されている。

30・31は磨製石斧である。30は2点が接合したもので、裏面右側縁に擦り切り痕を残す。ほぼ全面に丁寧な研磨が施され、鋳は不明瞭で、刃部は外湾する。石材は緑色泥岩である。31は小型で基部側を欠失するものである。鋳は明瞭に作り出され、刃部はやや外湾する。石材は片岩である。

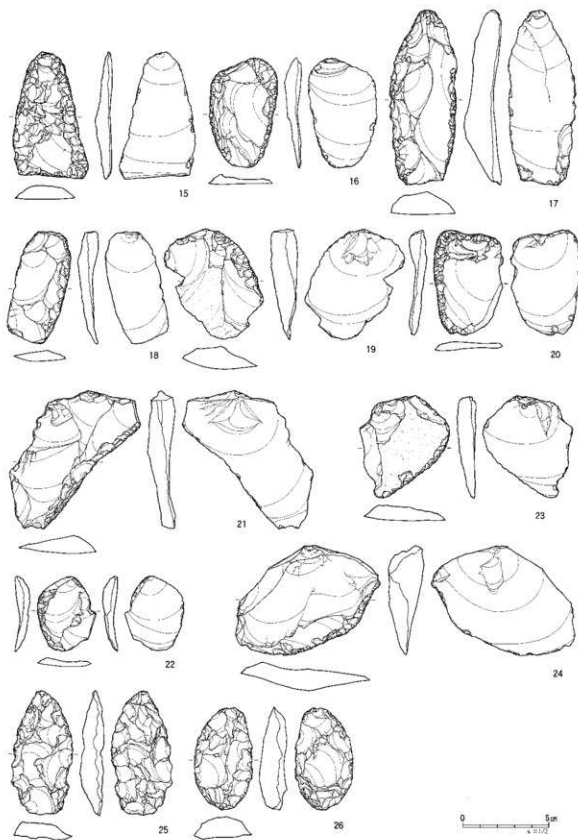
32・33はたたき石である。32は上下端にたたき痕が認められる。石材は泥岩である。33は表裏面と周縁部にたたき痕が認められる。表裏面のたたき痕はくぼみ状で複数からなる。石材は砂岩である。

34は砥石である。扁平な礫の表裏面に横及び斜方向の擦痕が認められる。石材は凝灰岩である。

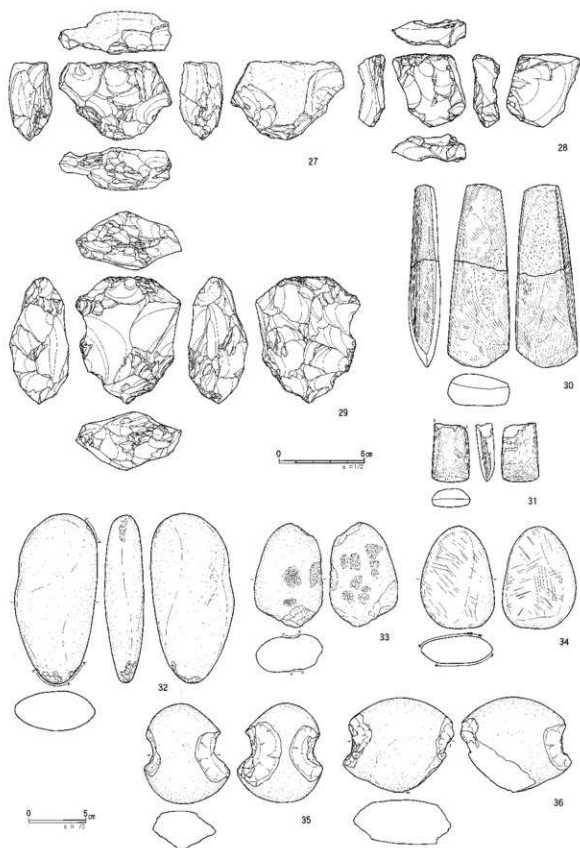
35・36は石錘である。どちらも平面が不整形円形の礫を素材とし、大きな剥離により対向する挟り部が作り出される。35は礫の短軸方向に挟り部が作り出される。石材は頁岩である。36は裏面下部を欠失し、挟り部は礫の長軸方向に作り出される。石材は安山岩である。

37～41は扁平打製石器である。扁平な礫を素材とするものが多く、主に周縁加工により整形して長軸方向の一側縁に直線的な刃部を作り出している。石材は全て安山岩である。37は比較的厚みのある礫を素材とし、二次加工は表裏面全体に施される。刃部にはわずかにすり面が認められる。38は2点が接合している。板状の礫の形状を生かし、刃部以外の加工は少ない。また、刃部にすり面はほとんど認められない。39・40は全体の3分の1程を欠失するものである。39は刃部にすり面が部分的にみられる。40は比較的薄みのものである。41は全体の約2分の1程を欠失する。刃部のすり面が幅広く、約1cmを測る。

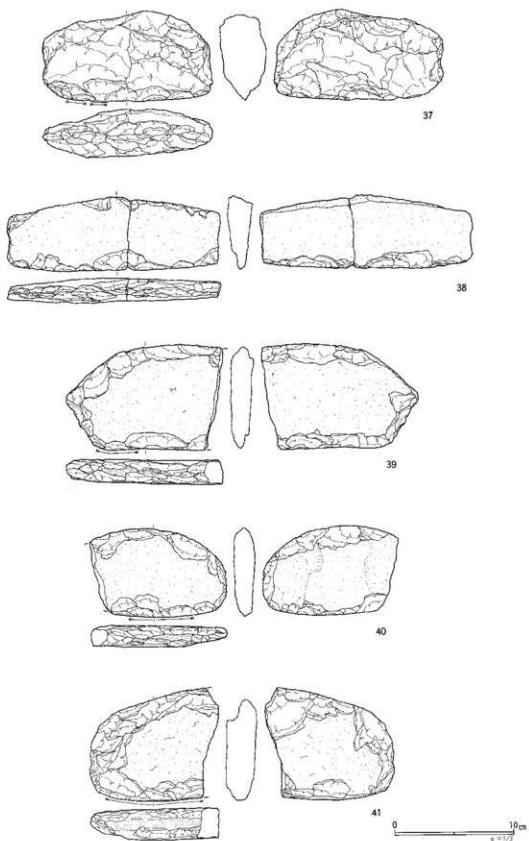
(広田)



図Ⅲ-15 包含層出土の石器(2)



図III-16 包含層出土の石器(3)



図Ⅲ-17 包含層出土の石器(4)

表Ⅲ-3 包含層出土掘載復元土器一覽(2)

探洞番号	掲載番号	写真図版番号	発掘区	層位	遺物№	点数	分類	器種	部位	文様ほか	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考	
Ⅲ-5	14	9	H44	Ⅱ-5	176	30	Ⅱb	深鉢	口～胴	LR縄文・隆帯上刻み・燃糸文	18.2	-	(14.7)		
Ⅲ-6	15	10	G43	Ⅱ-5	84-105-106	34	Ⅱb	深鉢	口～底	LR縄文・隆帯上刻み	(14.0)	8.2	20.7		
			G43	Ⅱ-4	72	1									
			G44	Ⅱ-4	10-56-88	7									
Ⅲ-6	16	10	H43	Ⅱ-3	40	1									
			H43	Ⅱ-4	39	6	Ⅱb	深鉢	口～底	直前段反燃縄文・隆帯上刻み	(13.4)	(6.4)	(20.2)		
			H44	Ⅱ-2	107	1									
			H44	Ⅱ-3	77	1									
			H44	Ⅱ-4	112	3									
Ⅲ-6	17	10	H44	Ⅱ-5	175	28	Ⅱb	深鉢	口～底	LR縄文	(11.7)	(7.0)	15.9	器面磨耗著しい	
Ⅲ-6	18	10	G44	Ⅱ-5	44-89	57	Ⅱb	深鉢	口～底	直前段反燃縄文・内面一部ミガキ	21.0	9.5	30.0		
Ⅲ-6	19	10	G43	Ⅱ-4	72	51									
			G43	Ⅱ-5	73-84-105	3	Ⅱb	深鉢	口～底	LR縄文・燃糸文	(15.2)	10.0	28.3		
			G44	Ⅱ-4	10-21	3									
Ⅲ-6	20a	11	G43	Ⅱ-4	72	2	Ⅱb	深鉢	口～胴	側面圧痕・燃糸文・内面ミガキ	(14.0)	-	(9.8)	円筒土器下層c式	
			G44	Ⅱ-4	21	2									
			G43	Ⅱ-4	72	2									
Ⅲ-6	20b	11	G44	Ⅱ-4	10-21	7	Ⅱb	深鉢	底	燃糸文・内面ミガキ	-	(7.0)	(9.1)	円筒土器下層c式	
			F43	Ⅱ-4	1	2									
			F43	Ⅱ-5	2-22	6									
Ⅲ-7	21	10	G42	Ⅱ-2	14-31-38	18	Ⅱb	深鉢	胴～底	燃糸文・内面一部ミガキ	-	(10.8)	(26.7)		
			G42	Ⅱ-3	39-46	4									
			G43	Ⅱ-3	28	5									
			G43	Ⅱ-4	45	5									
Ⅲ-7	22	11	G42	Ⅱ-1	3	1									
			G43	Ⅱ-5	106	1	Ⅱb	深鉢	胴～底	燃糸文・底面燃糸文・内面一部ミガキ	-	12.0	(15.0)		
			G44	Ⅱ-4	21	13									
			G44	Ⅱ-3	79	1									
Ⅲ-7	23	11	G44	Ⅱ-4	88-103	3	Ⅱb	深鉢	胴	燃糸文・横位沈線・内面ミガキ	-	-	(20.4)		
			H44	Ⅱ-4	21-112-108-206	12									
			H45	Ⅱ-4	40	1									
Ⅲ-7	24	11	G43	Ⅱ-4	72	1	Ⅱb	深鉢	胴～底	燃糸文・底面燃糸文・内面一部ミガキ	-	10.8	(12.2)		
Ⅲ-7	25	11	G44	Ⅱ-5	44	69	Ⅱb	深鉢	直前段反燃縄文	(19.0)	10.8	(35.6)			
Ⅲ-7	26	12	G42	Ⅱ-2	50	14	Ⅱb	深鉢	胴～底	直前段反燃縄文	-	(7.5)	(11.6)	円筒土器下層c式・横位上層D21-1・横位	
			G43	Ⅱ-5	106	1									
			G45	Ⅱ-4	8	4									
Ⅲ-8	27	12	H44	Ⅱ-5	175-176-273	41	Ⅱb	深鉢	胴～底	燃糸文・内面一部ミガキ	-	11.0	(30.1)	器面磨耗著しい	
			H44	-	-	1									
Ⅲ-8	28	12	G43	Ⅱ-4	72	6	Ⅱb	深鉢	底	燃糸文・LR縄文・底面燃糸文・ミガキ	-	(10.0)	(15.5)		
			G43	Ⅱ-5	83	25									
Ⅲ-8	29	12	H43	泥灰	56-57	80	IVa	壺	口～底	把手・沈線・隆帯による透差文・幾何学的文様	19.8	16.4	41.8	通元式～トリサキ式	

表Ⅲ-4 包含層出土掘載破片土器一覽(1)

探洞番号	掲載番号	写真図版番号	発掘区	層位	遺物№	点数	分類	器種	部位	文様ほか		備考
Ⅲ-9	30	13	G44	Ⅱ-4	10	6	Ⅱb	深鉢	口～胴	綾絡文・隆帯指頭押捺・直前段反燃縄文		
Ⅲ-9	31	13	G44	Ⅱ-5	105	4	Ⅱb	深鉢	口縁	綾絡文・隆帯上刻み・内面ミガキ		
Ⅲ-9	32	13	H44	Ⅱ-4	112	2	Ⅱb	深鉢	口縁	綾絡文・隆帯指頭押捺・内面ミガキ		
Ⅲ-9	33	13	G43	Ⅱ-5	73	1	Ⅱb	深鉢	口縁	綾絡文・隆帯指頭押捺		
Ⅲ-9	34	13	G44	Ⅱ-4	21	1	Ⅱb	深鉢	頸	綾絡文・隆帯上刻み・LR縄文		
Ⅲ-9	35	13	G43	Ⅱ-5	73	4	Ⅱb	深鉢	口縁	綾絡文・隆帯上刻み		
Ⅲ-9	36	13	F41	Ⅱ-1	10	6	Ⅱb	深鉢	口縁	綾絡文・LR縄文・隆帯上刻み		
Ⅲ-9	37	13	H44	Ⅱ-4	21	3	Ⅱb	深鉢	口縁	横位沈線・綾絡文・隆帯指頭押捺・内面ミガキ		
Ⅲ-9	38	13	H44	Ⅱ-5	176	7	Ⅱb	深鉢	頸～胴	隆帯上刻み・横位沈線・綾絡文・直前段反燃縄文・内面ミガキ		
Ⅲ-9	39	13	F42	Ⅱ-4	13	1						
			F42	Ⅱ-5	44-77	3	Ⅱb	深鉢	頸～胴	綾絡文・隆帯上刻み・LR縄文・内面ミガキ		
Ⅲ-9	40	14	G42	Ⅱ-2	37	5						
			H44	Ⅱ-2	14	1	Ⅱb	深鉢	口縁	綾絡文・横位沈線・歯窟状文		
Ⅲ-9	41	14	G43	Ⅱ-4	72	1						
			G43	Ⅱ-5	83	1	Ⅱb	深鉢	口縁	綾絡文・直前段反燃縄文・内面一部ミガキ		
Ⅲ-9	42	14	G44	Ⅱ-4	10-21	3						
			H44	Ⅱ-3	108	4	Ⅱb	深鉢	口縁	綾絡文・斜位側面圧痕		
Ⅲ-9	43	14	H44	Ⅱ-4	186	1	Ⅱb	深鉢	口縁	綾絡文・LR縄文・内面ミガキ		

表Ⅲ-5 包含層出土掲載破片土器一覽(2)

神図 番号	掲載 番号	写真回 版番号	発掘区	層位	遺物No.	点数	分類	器種	部位	文様ほか	備考
Ⅲ-10	44	14	G44	Ⅱ-4	103	2	Ⅱb	深鉢	口～胴	横位沈着・綾格文・隆帯上側面圧痕・直前段反橋縄文、内面ミガキ	
				H44	トレンヂ	11					5
				H44	Ⅱ-4	21・112・173・186・200					12
Ⅲ-10	45	14	H44	Ⅱ-2	33	1	Ⅱb	深鉢	胴	綾格文・横位沈着・直前段反橋縄文	
				H44	Ⅱ-5	105					1
				H45	Ⅱ-4	18					1
Ⅲ-10	46a	14	G44	Ⅱ-4	56・88・103	4	Ⅱb	深鉢	口～胴	綾格文・網目状燃糸文・隆帯上指頭押捺・直前段反橋縄文、内面ミガキ	
				H44	トレンヂ	11					3
				H44	Ⅱ-2	76					1
Ⅲ-10	46b	15	H44	Ⅱ-3	108	1	Ⅱb	深鉢	底	直前段反橋縄文・底面縄文、内面一部ミガキ	
				H44	Ⅱ-4	21・186					5
				H44	Ⅱ-4	88					2
Ⅲ-10	47	15	H44	トレンヂ	11	3	Ⅱb	深鉢	胴	綾格文・燃糸文、内面一部ミガキ	
				H45	Ⅱ-3	39					1
				H44	Ⅱ-2	75・76					2
Ⅲ-10	48	15	H44	Ⅱ-4	21・196・200	6	Ⅱb	深鉢	胴	綾格文・LR縄文	
				H44	Ⅱ-4	22					16
				H44	Ⅱ-5	176					3
Ⅲ-11	51	15	G43	Ⅱ-5	83	2	Ⅱb	深鉢	口縁	LR縄文	
Ⅲ-11	52	15	G43	Ⅱ-3	28	1	Ⅱb	深鉢	口縁	縦位LR縄文、内面ミガキ	
Ⅲ-11	53	15	H44	Ⅱ-4	111	2	Ⅱb	深鉢	口縁	縄側面圧痕・燃糸文	
Ⅲ-11	54	15	G43	Ⅱ-5	106	2	Ⅱb	深鉢	口縁	網目状燃糸文、内面ミガキ	
Ⅲ-11	55	15	G42	Ⅱ-2	13	8	Ⅱb	深鉢	口縁	綾格文、内面ミガキ	
Ⅲ-11	56	15	H45	Ⅱ-5	52	5	Ⅱb	深鉢	頸	縄側面圧痕・隆帯・LR縄文	
Ⅲ-11	57	15	G43	Ⅱ-5	73	1	Ⅱb	深鉢	頸	燃糸文、縄側面圧痕	
Ⅲ-11	58	15	G43	Ⅱ-5	105・106	3	Ⅱb	深鉢	頸～胴	隆帯上刻ミ・LR縄文、内面ミガキ	
Ⅲ-11	59	16	G42	Ⅱ-2	50	7	Ⅱb	深鉢	口～胴	燃糸文・横位、縦位縄側面圧痕・直前段反橋	内面上部下層c式、復元土器26と同・銅火
Ⅲ-11	60	16	G44	Ⅱ-4	21	1	Ⅱb	深鉢	口縁	燃糸文・縄側面圧痕、内面ミガキ	内面上部下層c式
Ⅲ-11	61	16	F42	Ⅱ-5	44	1	Ⅱb	深鉢	頸	燃糸文・縦位縄側面圧痕	内面上部下層c式
Ⅲ-11	62	16	G43	Ⅱ-3	28	1	Ⅱb	深鉢	頸	縄側面圧痕・燃糸文、内面ミガキ	内面上部下層c式
Ⅲ-11	63	16	G44	Ⅱ-4	88・103	2	Ⅱb	深鉢	胴	LR縄文・RLR縄文、内面ミガキ	
				H44	Ⅱ-3	108					2
				H44	Ⅱ-4	21・112・186					5
Ⅲ-11	64	16	H44	Ⅱ-4	112・186	2	Ⅱb	深鉢	胴	燃糸文	
				H44	Ⅱ-5	202					3
Ⅲ-11	65	16	G43	Ⅱ-5	84	1	Ⅱb	深鉢	胴	縦位LR縄文	
				G44	Ⅱ-4	103					1
				H44	Ⅱ-3	108					1
Ⅲ-12	66	16	H44	Ⅱ-4	21・37・103・112・146・186	8	Ⅱb	深鉢	底	LR縄文・底面縄文、内面一部ミガキ	
				G44	Ⅱ-4	21					3
Ⅲ-12	67	16	G44	Ⅱ-4	21	3	Ⅱb	深鉢	底	LR縄文	
Ⅲ-12	68	16	G44	Ⅱ-4	10	1	Ⅱb	深鉢	底	LR縄文、内面ミガキ	
				H44	Ⅱ-5	202					1
Ⅲ-12	69	16	H44	Ⅱ-2	33	2	Ⅱb	深鉢	底	LR縄文・底面縄文	
				H44	Ⅱ-3	35					2
Ⅲ-12	70	16	H44	Ⅱ-3	35	2	Ⅱb	深鉢	底	LR縄文・底面縄文、内面一部ミガキ	
Ⅲ-12	71	16	G43	Ⅱ-2	14・20	3	Ⅱb	深鉢	底	直前段反橋縄文・底面縄文、内面ミガキ	
Ⅲ-12	72	17	H44	Ⅱ-4	112	3	Ⅱb	深鉢	底	燃糸文、内面一部ミガキ	
Ⅲ-12	73	17	H44	Ⅱ-5	202	1	Ⅱb	深鉢	底	燃糸文・底面燃糸文	
Ⅲ-12	74	17	F45	Ⅱ-5	22	2	Ⅱb	深鉢	底	燃糸文、内面一部ミガキ	
Ⅲ-12	75	17	G44	Ⅱ-4	88	1	Ⅱb	深鉢	底	不整燃糸文、内面ミガキ	
Ⅲ-12	76	17	H44	Ⅱ-5	202	1	Ⅱb	深鉢	底	燃糸文	
Ⅲ-12	77	17	G43	Ⅱ-4	45	5	Ⅱb	深鉢	底	燃糸文・底面縄文、内面一部ミガキ	
				G43	Ⅱ-5	84・105・107					3
				G43	Ⅱ-3	28					1
Ⅲ-12	78	17	G43	Ⅱ-4	45・72	3	Ⅱb	深鉢	底	燃糸文・底面燃糸文、内面ミガキ	
				G43	Ⅱ-5	84					4
Ⅲ-13	79	17	F43	Ⅱ-5	20・21・22	5	Ⅱb	深鉢	口～胴	横位、縦位縄側面圧痕、結束羽状縄文・燃糸文、内面ミガキ	内筒土器下層d1式
Ⅲ-13	80	17	F42	Ⅱ-5	44・77	4	Ⅱb	深鉢	胴	燃糸文・結束羽状縄文、内面ミガキ	
Ⅲ-13	81	17	H43	Ⅱ-2	22	1	Ⅱb	深鉢	胴	縄側面圧痕	
Ⅲ-13	82	17	G43	Ⅱ-4	72	1	Ⅱa	深鉢	口縁	縄側面圧痕、内面ミガキ	
Ⅲ-13	83	17	G43	Ⅱ-3	29	1	Ⅱa	深鉢	胴	羽状縄文、内面ミガキ	
Ⅲ-13	84	17	H44	Ⅱ-2	15・34・238	21	ⅡVa	深鉢	頸～胴	磨消縄文・刺突列、内面ミガキ	
Ⅲ-13	85	17	F42	Ⅱ-2	7	1	ⅡVa	深鉢	胴	LR縄文、内面ミガキ	

表Ⅲ-6 包含層出土掲載石器一覧

挿図 番号	掲載 番号	写真図 版番号	発掘区	層位	遺物 No.	遺物名	石材	大きさ (cm)			重量 (g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
Ⅲ-14	1	18	H44	Ⅱ-4	131	石鏃	頁岩	(5.7)	1.7	0.6	(4.4)	
Ⅲ-14	2	18	H44	Ⅱ-4	162	石鏃	頁岩	5.2	1.7	0.5	3.0	
Ⅲ-14	3	18	H44	Ⅱ-4	47	石鏃	頁岩	2.4	1.3	0.3	0.6	
Ⅲ-14	4	18	G43	Ⅱ-3	31	石槍・ナイフ類	頁岩	8.7	3.3	1.0	23.8	
Ⅲ-14	5	18	G43	Ⅱ-2	21	石錐	頁岩	4.8	2.8	0.7	4.4	
Ⅲ-14	6	18	G43	Ⅱ-4	55	石錐	頁岩	7.1	5.0	1.4	23.5	
Ⅲ-14	7	18	G42	Ⅱ-2	41	石錐	頁岩	7.6	2.3	1.7	16.2	
Ⅲ-14	8	18	G43	Ⅱ-4	54	石錐	頁岩	5.5	1.1	0.5	2.5	
Ⅲ-14	9	18	H44	Ⅱ-4	22	つまみ付きナイフ	頁岩	6.7	2.3	0.8	10.5	
Ⅲ-14	10	18	H44	トレンチ	4	つまみ付きナイフ	頁岩	11.0	2.8	1.3	31.9	
Ⅲ-14	11	18	G44	Ⅱ-4	91	つまみ付きナイフ	頁岩	8.6	2.4	1.2	18.3	
Ⅲ-14	12	18	G43	Ⅱ-5	100	つまみ付きナイフ	頁岩	7.2	3.4	0.8	15.6	
Ⅲ-14	13	18	F41	Ⅱ-2	3	つまみ付きナイフ	頁岩	6.8	3.7	1.0	17.5	
Ⅲ-14	14	18	F42	Ⅱ-4	29	つまみ付きナイフ	頁岩	6.7	4.7	1.3	14.3	
Ⅲ-15	15	18	H44	Ⅱ-3	114	スクレイパー	頁岩	7.8	4.4	0.9	26.6	
Ⅲ-15	16	18	F42	Ⅱ-4	31	スクレイパー	頁岩	6.4	4.1	1.0	18.9	
Ⅲ-15	17	18	H44	Ⅱ-2	84	スクレイパー	頁岩	10.8	4.0	1.9	66.1	
Ⅲ-15	18	18	G45	Ⅱ-5	2	スクレイパー	頁岩	6.6	3.7	1.0	14.5	
Ⅲ-15	19	18	G43	Ⅱ-4	145	スクレイパー	頁岩	6.5	5.9	1.6	31.4	
Ⅲ-15	20	18	G43	Ⅱ-4	56	スクレイパー	頁岩	6.1	4.1	1.0	17.2	
Ⅲ-15	21	18	G43	Ⅱ-2	22	スクレイパー	頁岩	8.1	7.6	1.5	54.6	
Ⅲ-15	22	18	F42	Ⅱ-2	18	スクレイパー	頁岩	4.4	3.5	0.8	6.6	
Ⅲ-15	23	18	G43	Ⅱ-4	57	スクレイパー	頁岩	6.0	5.3	1.1	27.5	
Ⅲ-15	24	18	G42	Ⅱ-2	29	スクレイパー	頁岩	6.4	8.5	2.1	67.8	
Ⅲ-15	25	19	G42	Ⅱ-2	52	両面調整石器	頁岩	7.3	3.6	1.4	31.8	
Ⅲ-15	26	19	G44	Ⅱ-4	12	両面調整石器	頁岩	6.0	3.4	1.6	32.3	
Ⅲ-16	27	19	F41	Ⅱ-2	9	石核	頁岩	4.6	6.6	2.6	72.9	
Ⅲ-16	28	19	G43	Ⅱ-4	59	石核	頁岩	4.3	4.3	1.6	27.5	
Ⅲ-16	29	19	G43	Ⅱ-5	122	石核	頁岩	7.4	6.2	3.4	142	
Ⅲ-16	30	19	H44	Ⅱ-4	23	石斧	泥岩	16.0	5.4	2.8	380	
Ⅲ-16	31	19	H44	Ⅱ-2	223	石斧	片岩	(5.2)	3.3	1.5	(39.2)	
Ⅲ-16	32	19	F43	Ⅱ-5	32	たたき石	泥岩	14.9	7.3	3.5	466	
Ⅲ-16	33	19	H44	Ⅱ-4	148	たたき石	砂岩	9.2	6.0	3.1	144	
Ⅲ-16	34	19	H44	Ⅱ-4	149	砥石	凝灰岩	9.0	6.5	2.5	152	
Ⅲ-16	35	19	H45	Ⅱ-4	48	石錘	頁岩	8.8	7.5	3.4	238	
Ⅲ-16	36	19	H44	Ⅱ-4	28	石錘	安山岩	8.3	9.7	3.9	342	
Ⅲ-17	37	19	G43	Ⅱ-4	146	扁平打製石器	安山岩	14.2	7.6	3.9	476	
Ⅲ-17	38	19	H44	Ⅱ-4	27	扁平打製石器	安山岩	17.9	6.2	2.0	276	
Ⅲ-17	39	19	G44	Ⅱ-4	8	扁平打製石器	安山岩	(13.1)	8.8	2.0	(344)	
Ⅲ-17	40	19	G42	Ⅱ-2	58	扁平打製石器	安山岩	(11.4)	7.4	1.8	(216)	
Ⅲ-17	41	19	H44	Ⅱ-4	150	扁平打製石器	安山岩	(10.8)	(9.5)	(2.6)	(366)	